鮎のある風景

毎年、６月の鮎解禁日となると、九州の各河川にはたくさんの釣人が訪れ、夏の風物詩となっています。 鮎は別名“香魚”と呼ばれ（西瓜の香りがします）、この時期は友釣りという手法で釣り上げます。友釣りは縄張りを持つ鮎の生態を上手く利用した釣り方で、その仕掛けや釣れるしくみについては見る機会が殆どありません。そこで、今回は鮎に関する豆知識として、道具、仕掛け、雄雌の見分け方などについて紹介したいと思います。

鮎は縄張り（約１×１m程度）をつくり、縄張りに侵入した鮎を体当たりで追い払う習性があり、この習性を利用したのが、友釣りです。

体当たりした鮎は下流に流れ、その時おとり鮎の尻びれに取り付けられた針に鮎が掛かるしくみです。

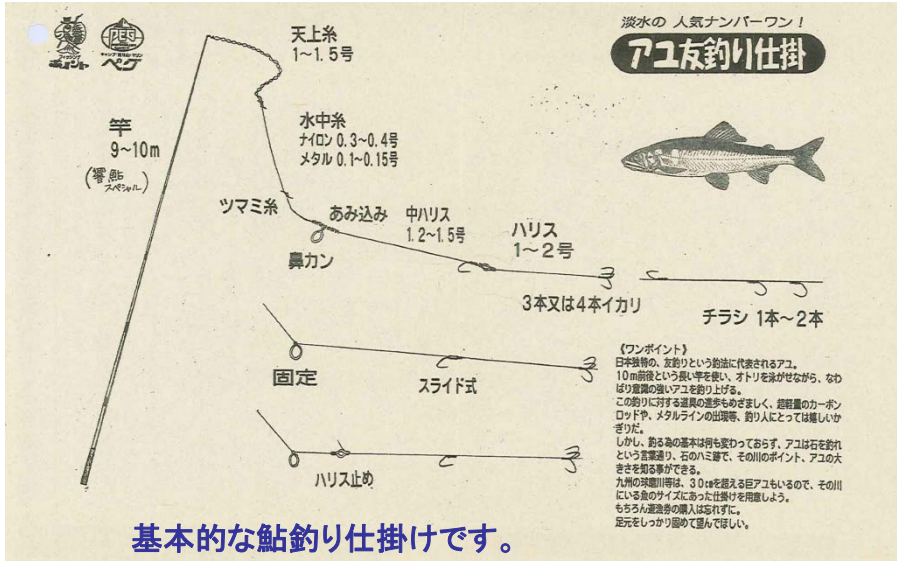
一般に背中に針が掛かりますが、まれに頭や腹に掛かったりします。頭や腹に掛かった鮎は弱ってしまい、おとり鮎には使えません。

釣果を上げるには、なるだけ元気な鮎を随時確保する必要があります。

←これは“おとり鮎”です。

←これが掛かった鮎です。

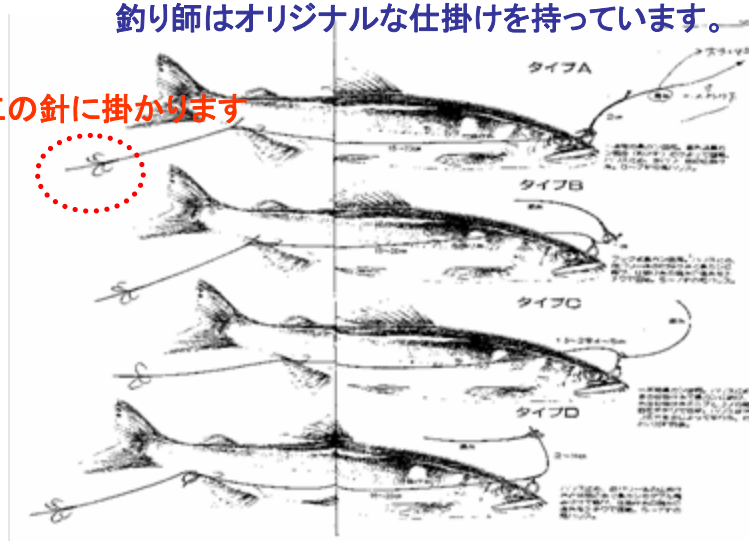
つぎは、この鮎が“おとり鮎”になります。



基本的な鮎釣り仕掛けです。

釣り師はオリジナルな仕掛けを持っています。

この針に掛かります



鮎のある風景

解禁日の鮎の体長は約20cmくらいになります。8月頃になると体長が30cmを超え“尺あゆ”と呼ばれます。

ちょっと気になること！

近年、6月下旬から7月上旬にかけて、体長の小さい小鮎（体長10cmくらい）が市場に出回っています。毎年相当数の稚魚を放流していると公表されていますが、水産資源保護のためには、ここまで小さい鮎を捕らなくてもいいのでは！と毎年感じています。

友釣りに使う道具類（基本的な物のみ）

①ウェーダー（防護服）

②川用の足袋：川の石は滑るので、靴の裏にフェルトが　貼ってはる。

③ベスト：仕掛け、漁業権証を入れている。

④たも：ピンとはりのはるもの

⑤引き船：釣れた鮎を入れておく

⑥友かん：おとり鮎を釣り場まで運ぶもの

⑦鮎竿：約9～10mの軽量

⑧仕掛け一式

鮎のある風景

豆知識：アユの雄雌の見分け方を紹介します。尻びれを見ると明らかに違いがわかります。

平成18年10月7日採取
採取方法：ころがし漁

【雄♂】

【雌♀】